

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 、学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	7人	3人	4人	2人	16人	9人	14人	0人	44人	11.4人	
計	7人	3人	4人	2人	16人	9人	14人	0人	44人	11.4人	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼任)	
基礎	科学的思考 の基盤 人間と生活 社会の理解	情報処理学	8	河野 良平	専任	
		医療統計学	8	中谷 勇哉	兼任	
		生物学	8	河野 良平	専任	
		心理学	15	松尾 加代	専任	
		日本語表現Ⅰ	8	明治 裕子, 磯田 恵子, 山崎 澄子	兼任	
		日本語表現Ⅱ	8	明治 裕子, 磯田 恵子, 山崎 澄子	兼任	
		医療倫理学	15	吉本 陵	兼任	
		教育学Ⅰ	15	中裕 俊介	専任	
		教育学Ⅱ	15	中裕 俊介	専任	
		スポーツ実技	8	中裕 俊介	専任	
		ダンスレクリエーション	8	松永 美規, 松川 恵梨子	兼任	
		社会学	8	野村 和樹	専任	
		社会福祉学	8	野村 和樹	専任	
		英文法と英語コミュニケーション	15	パトリック・ポーレン	兼任	
		英文講読	8	松尾 加代	専任	
		医療英語	8	岡田 守弘	専任	
		英会話Ⅰ	8	パトリック・ポーレン	兼任	
		英会話Ⅱ	8	パトリック・ポーレン	兼任	
		基礎ゼミ	8	各担当教員	専任	
		コミュニケーション学	8	中裕 俊介	専任	
総合ゼミⅠ	15	中村 美砂, 村西 壽祥, 佐伯 純弥	専任			
専門基礎	人体の構造 と機能及び 心身の発達	形態・機能学解剖領域Ⅰ	15	山岸 直子	専任	
		形態・機能学解剖領域Ⅱ(含演習)	15	山岸 直子	兼任	
		形態・機能学生理領域Ⅰ	15	坪田 裕司, 中村 美砂	兼任・専任	
		形態・機能学生理領域Ⅱ(含演習)	15	坪田 裕司	兼任	
		解剖生理学実習Ⅰ	15	大籠 友博	専任	
		解剖生理学実習Ⅱ	15	大籠 友博	専任	
		運動学	8	佐伯 純弥	専任	
		病理学	15	中村 美砂, 宇都宮 洋才	専任	
		発育発達学(含運動発達学)	8	畑中 良太, 高橋 泰子	専任	
		形態・機能学特論解剖領域	8	大籠 友博	専任	
		形態・機能学特論生理領域	8	坪田 裕司	兼任	
		医学概論	8	岡田 守弘	専任	
		疾病と障害 の成り立ち 及び回復過 程の促進	小児科学	8	伊藤 康	兼任
			内科学Ⅰ	15	岡田 守弘	専任
	内科学Ⅱ(含老年医学)		15	岡田 守弘	専任	
	精神医学		15	堺 景子	専任	
	神経内科学		15	出田 淳	兼任	
	臨床神経学		15	新谷 亜紀	兼任	

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	15	金澤 元宣	兼任
		整形外科学特論	8	中川 幸洋, 他	兼任
		臨床心理学	15	堺 景子	専任
		一般臨床医学	15	岡田 守弘	専任
		統合基礎臨床医学	15	岡田 守弘, 他	専任 兼任
		リハビリテーション医学	8	幸田 剣, 他	兼任
		産業医学	8	岡田 守弘	専任
		薬理学特論	8	池内 治平	兼任
		栄養学特論	8	中野 忠雄	兼任
		画像診断学特論	8	岡田 守弘, 他	専任・兼任
		救急医学特論	8	岡田 守弘, 他	専任・兼任
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論 (含地域リハビリテーション)	8	大嶋 伸雄, 他	専任	
	社会福祉援助技術論 (含ケースワーク論)	8	野村 和樹	専任	
	関係法規	8	野村 和樹	専任	
	社会保障制度	8	野村 和樹	専任	
	就労支援学	8	増澤 達彦	専任	
	地域包括ケアシステム・リハビリテーション論	8	古井 透, 他	専任 兼任	
	障害者福祉論	8	野村 和樹	専任	
専門	理学療法治療学	研究法	8	今岡 真和, 他	専任
		卒業研究	22.5	中村 美砂, 他	専任
		卒業論文	15	中村 美砂, 他	専任
	基礎理学療法学	理学療法概論(含演習)	15	金尾 顕郎, 他	専任・兼任
		基礎運動学	8	岡 健司, 佐伯 純弥	専任
		基礎運動学実習	15	岡 健司, 佐伯 純弥	専任
		機能運動学Ⅰ	15	村西 壽祥	専任
		機能運動学Ⅱ	15	村西 壽祥	専任
		臨床運動学	15	村西 壽祥	専任
		臨床運動学演習	15	岡 健司	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	8	畑中 良太	専任
		理学療法管理学Ⅱ	8	畑中 良太	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学概論	15	肥田 光正	専任
		筋骨格系触察法	15	今井 亮太, 岡 健司	専任
		理学療法評価学Ⅰ	15	畑中 良太	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	久利 彩子	専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	15	岡 健司, 今井 亮太	専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	15	金尾 顕郎, 畑中 良太, 他	専任
	理学療法治療学	統合理学療法学	15	金尾 顕郎, 他	専任
		物理療法学	15	肥田 光正	専任
		物理療法学実習	15	肥田 光正, 村上 達典	専任
		運動療法学総論	15	峰久 京子	専任
運動療法学実習		15	峰久 京子, 佐伯 純弥	専任	
日常生活活動学		15	久利 彩子	専任	
日常生活活動学実習		15	久利 彩子	専任	
義肢装具学		15	河村 廣幸	専任	
義肢装具学実習		15	河村 廣幸, 橋本 寛	専任 兼任	
神経系理学療法学		30	畑中 良太, 他	専任・兼任	
神経系理学療法学実習		30	畑中 良太, 肥田 光正, 今井 亮太	専任	
運動器系理学療法学	15	峰久 京子	専任		

専門	理学療法 治療学	運動器系理学療法学実習	30	峰久 京子, 佐伯 純弥	専任
		内部障害理学療法学	15	村上 達典, 金尾 顕郎	専任
		内部障害理学療法学実習	15	村上 達典, 金尾 顕郎	専任
		理学療法技術論	15	今井 亮太, 畑中 良太	専任
		理学療法学 PBL	8	金尾 顕郎, 他	専任
		精神科理学療法学	8	小峯 武陸	兼任
		産業理学療法学	8	今岡 真和	専任
		スポーツリハビリテーション概論	8	村上 達典, 法所 遼汰	専任・兼任
		スポーツリハビリテーション実習	15	村上 達典, 久保 峰鳴, 大前 千代子	専任・兼任
		園芸療法	15	川村 明代	兼任
		ガーデニング	15	川村 明代	兼任
		園芸論	15	川村 明代	兼任
		園芸療法実習 I	15	田崎 史江	兼任
		園芸療法実習 II	15	田崎 史江	兼任
	地域理学 療法学	生活環境学	15	古井 透	専任
		地域理学療法学(含在宅理学療法)	15	今岡 真和, 肥田 光正	専任
		地域支援フィールドワーク	15	久利 彩子, 中越 雄也	専任
	基礎理学 療法学	健康増進・介護予防フィールドワーク	15	今岡 真和	専任
		認知症ケア学	8	嶋野 広一	専任
		公衆衛生学	8	古井 透	専任
		アロマセラピー	8	武田 ひとみ	兼任
		臨床ゼミ II	15	久利 彩子, 今井 亮太, 畑中 良太	専任
		臨床実習指導 I	15	中村 美砂, 村西 壽祥, 佐伯 純弥	専任
		臨床実習指導 II	15	久利 彩子, 今井 亮太, 畑中 良太	専任
		臨床実習指導 III	15	古井 透, 今岡 真和, 村上 達典	専任
	臨床実習	臨床見学実習	22.5	金尾 顕郎, 他	専任
		臨床検査・測定実習	67.5	金尾 顕郎, 他	専任
		臨床総合実習 I	180	金尾 顕郎, 他	専任
		臨床総合実習 II	180	金尾 顕郎, 他	専任

※各科目の教育内容詳細については、HP 公表 ([https://www.kawasakigakuen.ac.jp/academy/info\\_study.php](https://www.kawasakigakuen.ac.jp/academy/info_study.php))

※1 年次については、令和 7 年度入学者適用第 5 次カリキュラム、2 年次以降については令和 2 年度以降入学者適用第 4 次カリキュラムを適用

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床見学実習	1年後期	総合ゼミ I	1年前期
		臨床実習指導 I	1年後期
臨床検査・測定実習	2年後期	形態・機能学解剖領域 I	1年前期
		形態・機能学解剖領域 II (含演習)	1年後期
		形態・機能学生理領域 I	1年前期
		形態・機能学生理領域 II (含演習)	1年後期
		解剖生理学実習 I	1年前期
		解剖生理学実習 II	1年後期
		運動学	1年前期
		病理学	1年後期
		発育発達学(含運動発達学)	1年前期
		小児科学	2年前期
		内科学 I	2年前期
		内科学 II (含老年医学)	2年後期
		精神医学	1年後期
		神経内科学	2年前期
		臨床神経学	2年後期
		整形外科学	2年前期
臨床心理学	1年後期		
一般臨床医学	1年後期		

臨床検査・測定実習	2年後期	リハビリテーション概論(含地域リハビリテーション)	1年前期
		社会保障制度	1年前期
		理学療法学概論(含演習)	1年前期
		基礎運動学	1年前期
		基礎運動学実習	1年後期
		機能運動学Ⅰ	2年前期
		機能運動学Ⅱ	2年後期
		理学療法評価学概論	1年後期
		筋骨格系触察法	2年前期
		理学療法評価学Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学Ⅱ	2年後期
		理学療法評価学実習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学実習Ⅱ	2年後期
		物理療法学	2年前期
		物理療法学実習	2年後期
		運動療法学総論	1年後期
		運動療法学実習	2年前期
		日常生活活動学	2年前期
		日常生活活動学実習	2年後期
		義肢装具学	2年後期
		義肢装具学実習	2年後期
		運動器系理学療法学	2年後期
		生活環境学	2年後期
臨床ゼミⅡ	2年前期		
臨床実習指導Ⅱ	2年後期		
臨床総合実習Ⅰ	3年後期	就労支援学	3年後期
		地域包括ケアシステム・リハビリテーション論	3年後期
		研究法	3年前期
		臨床運動学	3年前期
		臨床運動学演習	3年前期
		理学療法管理学Ⅰ	3年後期
		神経系理学療法学	3年前期
		神経系理学療法学実習	3年前期
		運動器系理学療法学実習	3年前期
		内部障害理学療法学	3年前期
		内部障害理学療法学実習	3年前期

		地域理学療法学(含在宅理学療法)	3年前期
		臨床実習指導Ⅲ	3年前期
臨床総合実習Ⅱ	4年前期	卒業研究	3年後期 4年前期
		理学療法管理学Ⅱ	4年後期
		理学療法技術論	4年前期
		理学療法学PBL	4年前期

※各実習に参加するための臨床実習要件を定める

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検, 評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検, 評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検, 評価の体制がない。	1

●基本情報: 自己点検, 評価体制記入してください。

自己点検, 評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名(委員長)	武田 雅俊
組織の開催頻度	年 3 回程度
組織の取り組み内容	・自己点検・評価の実施
	・自己点検・評価結果の検証及び活用
	・点検・評価結果に係る報告書の作成及び公表
自己点検, 評価結果の公表	毎年、HP 公表 ( <a href="https://www.kawasakigakuen.ac.jp/academy/info_assessment.php">https://www.kawasakigakuen.ac.jp/academy/info_assessment.php</a> )

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報: シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	委員長、副委員長、各専攻教員、事務局長、教務課職員
	改善の仕組みの実際	毎年、教務委員会においてシラバス記入要領を策定し、記載項目の標準化を図っている。作成後は事務局による記載内容の点検を行い、不備の是正を徹底している。また、授業アンケート結果等を FD・SD 研修において共有・分析し、次年度のシラバス及び授業改善に繋げている。

【自己評価 4-3】自己点検, 評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価委員会において、毎年、本学の教育研究活動及び管理運営の点検・評価を実施し、その結果を公表している。公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価については、令和 6 年度に受審し、令和 7 年 3 月 13 日付で適合認定を受けている。また、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価においても認定を受けており、認定期間は令和 7 年 4 月 1 日から令和 12 年 3 月 31 日である。これらの評価で示された意見等については、教務委員会で共有・検討し、教育内容・方法の改善に反映している。
---